最優秀賞

私の中のかいじゅう

千葉県　佐倉市立井野小学校　五年
山本(やまもと)　花奈(はな)

お母さんありがとう。私の中の小さなかいじゅうを、あたたかく見守ってくれて。
私の心の中には、小さなかいじゅうがいます。普段はおとなしくしているけれど、しかられると、とつ然大きくなってあばれだします。そしてお母さんを困らせて、またよけいにしかられます。
例えば、弟とけんかした時、お手伝いをさぼった時、ついだらだらしてしまった時に、しかられます。私はそんなに怒らなくてもいいのに、と思い、つい口ごたえしたり、たまに、泣いて大さわぎしてしまいます。悔しくて、悲しくて、もっと分かってほしいのに、と思います。
でも本当は、お母さんのことが大好きで、言うことも聞きたいです。しかられていっぱい反時に、足をドンドンとふみならして、お母さんなんて大きらい!とまで、思ってしまいます。
こうした後は、さびしくて、胸が何かにギュッとしめつけられたような気持ちになります。
あんなこと言わなければよかった、と後悔します。
どうしてだろう。どうして自分の気持ちをおさえられないのかな。お母さんのことが大好きなのに、どうして困らせてしまうのかな。私がなやんでいると、お母さんが言いました。

「あのね、花奈の中には小さなかいじゅうが住んでいるんだよ。納得がいかないことがあると、すぐにあばれだすんだよ。でも、悪いかいじゅうではないよ。心が成長するのに必要なかいじゅうなんだよ。誰の中にもいるし、実はね、お母さんもまだこっそり飼っているのよ。」
私はなるほど、と思いました。そして、もしかしたら、心の中で飼っているかいじゅうは、体が大きくなるにつれて小さくなるのかな、と考えました。私はお母さんに言いました。
「でもさ、花奈のかいじゅうは、同じ年の友達よりも、少し大きめかもしれないね。」
それを聞いてお母さんは、大笑いしました。そして、
「花奈の中のかいじゅうも、好きだよ。」
と言ってくれました。私はほっとしました。たくさん反こうするのは、悪い子がすることだと心配になったけど、かいじゅうがいるのはおかしなことじゃないんだ、と分かったからです。
でも私は、できるだけかいじゅうにあばれてほしくないです。好きな本をじっくり読んだり、家族とたくさんおしゃべりしたり、愛犬と遊んだりすると、おとなしいままでいてくれることに気づきました。
私のかいじゅうは時々やっかいだけれども、どうやら長い付き合いになりそうだから、ずっと仲良くして行きたいです。
お母さんありがとう。私の小さなかいじゅうに気付いてくれて、好きだと言ってくれて、本当にありがとう。